

日本画や陶芸 県内芸術家 32人が共演

14日まで100点展示

神戸

書家や日本画家、陶芸家やファッションデザイナーなど、兵庫県ゆかりの芸術家32人の作品約100点が並ぶ「神戸佳族のアート展」(神戸新聞社など後援)が9日、神戸市中央区のそごう神戸本店館9階で始まった。写真。

1999年に発足し、

ジャンルを超えた兵庫ゆかりの芸術家約100人が集う「兵庫・神戸CSの会」の主催。神戸ハーバーランドなどで開催中の芸術祭「神戸ビエンナーレ2011」に合わせた催しで、販売収益の一部を芸術祭の組織委員会に寄付する。

川西祐三郎さんが神戸ポートタワー周辺を描いた版画や、市野雅彦さんの丹波焼など著名作家の作品がずらり。神戸市須磨区在住の洋画家鈴木邦江さんは、昨年6月に訪れたスペイン・カナリア諸島の街並みなどをパステル画で表現している。

同会事務局長で、

芸術祭の総合プロデューサーを務める華道家吉田泰巳さん(72)は「全然違う分野の者同士が出合うことで、新しい発想が生まれている」と話す。14日まで。そごう神戸店 ☎078・2211・4181

(上田勇紀)

